

ワイドショーの構造分析¹⁾

— 形式の概念化とスタジオトークとの関連性 —

石山 玲子・川上 善郎
大石 千歳・鈴木 靖子
松田 光恵

1 研究目的

1-1 ワイドショーの歴史と現状

ワイドショーといえる最初の番組は1960年に始まった「ただいま正午・アフタヌーンショー」(NET系)であるといわれる。しかし、番組のジャンルとしてのワイドショーが本格的に開始され、定着するのは1964年の木島則夫モーニングショーからである(浅田、1987)。それ以前の朝の時間帯は放送時間のごく短い番組が続き、9時頃からは古い洋画などを放映していたという。また午後には、「東京アフタヌーン」などのワイド番組があったが、いずれも定着するには至らなかった。この時間帯に設定された木島則夫モーニングショーは、アメリカの番組 TODAY を手本にし、次のような特徴をもつ²⁾。1) 生放送で新鮮な素材を扱う、2) 主婦が興味・関心を持つテーマを選ぶ、3) おしゃべりの中でさわやかな雰囲気を演出する。このように、電波メディアが持つ同時性の特色を生かすとともに、出演者らの人間としてのありのままの姿を打ち出すことが重視されたのである(浅田、1987)。さらに、この時間帯の民放では放送時間の短い番組が多かったが、木島則夫モーニングショーでは放映時間をワイド化した。このような努力の結果、木島則夫モーニングショーは急激に視聴率を伸ばした。翌1985年4月にはNHK「スタジオ102」、フジテレビ「奥さまスタジオ・小川宏ショー」、テレビ朝日「アフタヌーンショー」と生放送で主婦を対象とした「ワイドショー」が次々と登場し、番組タイプのひとつ

としての「ワイドショー」というジャンルが確立したのである。

ワイドショーの発展時期を、石田（1998）は3つの時期に分ける。第一期は、1960年代後半から70年代であり、ワイドショーの定着期である。この時期は、取り上げた主題とその取り上げ方が、主婦に特有のテーマや見方の存在を示すと同時に、主婦のもつ有名性への欲望や「下世話な好奇心」や「井戸端会議的」といわれるような欲望のあり方を現わし、それを広めていった時期であると規定する。また、生放送という形態をとりながらほぼ毎日、同じ時間帯に放送されるため、人々の日常生活の一部として定着し、その結果、日常感覚や時間感覚と深く結びついたものとなる一方、新奇性や非日常という価値を作り出したと指摘する。第二期は、1980年代であり、ワイドショーの飛躍期である。ENG (Electronic News Gathering System) の導入により番組の取材方法、表現方式に変化がみられた。ワイドショー独特の「突撃取材」という取材方法とカメラの前で語るレポーターの語りの様式を生み出した。レポーターの存在（語り方）が感情喚起的な表現を仕上げたのである。さらに、この時期に映像的な「物語り」としての特質を獲得したとも指摘する。「悲劇—連続ドラマ—疑惑のサスペンス—ピカレスク・ロマン—容疑者逮捕をまつ刑事もの」という90年代の拡大期につながる質を獲得したのである。第三期は、1990年代であり、ワイドショーの拡大期と規定する。この時期に、ニュース番組とワイドショーの境界があいまいになった。ワイドショーが事件報道に傾斜すると同時に、ニュース番組の多くがワイドショーの手法を積極的に取り込むことで、両者の表現方法に共通点がみられるようになったのである。ワイドショーは、ニュース報道との差異を一層強化するために、「見せ物としての情報化」を一層進めることになる。1. リアルさを増すための現場中継の多用、2. 画一的な視点から表現される繰り返し映像の多用、3. センセーショナルリズムへの傾斜が極端に進行した時期である。90年代半ばには、「松本サリン事件」、「つくば母子殺人事件」、「オウム真理教事件」、「阪神大震災」報道などをめぐり、多方面からワイドショー俗悪論を噴出させたのである。その中でも、TBS「3時にあいましょう」のスタッフの引き起こしたオウム・ビデオ問題はワイドショーのあり方を大きく変容させる契機となった。

石田の発展段階は拡大期までであるが、2000年代を第四期ワイドショーの拡散期とよびたい。

ワイドショーの拡大期からワイドショーの拡散期へ転換させる大きな契機は上に述べたTBSのオウム・ビデオ問題であるが、90年代後半にあっても、98年「和歌山砒素殺人事件」報道、99年「サッチー騒動」報道³⁾と続き、ワイドショーに対する批判は一層強まることになった。2000年代に入り、ワイドショーとして時間帯にしても放送内容にしても各局横並びであったものが、TBSを代表として、事件、事故報道からの脱却を図り、ワイドショーのそれまでの特質を保持しつつ、生放送であるものの、生の素材を扱わない番組も登場した。その結果、2000年代の現在は2極化、さらには、3極化の時代といわれている(笠谷、2000)。それに伴い、ワイドショーという語も近年では、情報番組というより上位の概念に包摂される傾向にある⁴⁾。表-1(次ページ)は、1990年以降のワイドショーの一覧表である。この表からも、ワイドショーの多様化がうかがえる。

1-2 ワイドショーとは何か

小池(2001)は、「ワイドショーとは、生で、放送時間が長く、事件、事故、芸能、政治、経済、文化とあらゆる分野を扱う情報番組」と述べる。また、石田(1998)によれば、「ワイドショーとはテレビ番組制作者と出演者によって毎日制作され、朝と昼、各局競争関係において横並びで放送する形式をとる主婦向けの情報生番組」であるとす。碓井(2003)によれば、「ワイドショーは、『生放送』というテレビの利点を生かし、家庭の主婦層を対象に、情報と娯楽の提供を目的としたもの」と規定する。さらに田中(2002)は、ワイドショーとは「主婦を対象とし、芸能ニュース・事件ニュースの報道を扱うという形式を一部踏襲しながら健康、美容、生活情報を提供している」という。

これらの定義すべてに共通している点は、オーディエンスとして「主婦を対象」にしたものであり、「生放送」でながされるという二点である。また、「ワイドショー」という言葉に含まれているがゆえに、小池以外は示していない「放送時間の長さ」も重要な要因のひとつである⁵⁾。

これらの特徴に加えて、「多種多様な内容」を取り上げることが指摘されている。事件ニュースや芸能ニュースだけでなく、「健康、美容、生活情報」(田中)、「事件、事故、芸能、政治、経済、文化とあらゆる分野」(小池)の「情報」を提供することを特徴として挙げている。ワイドショーにおいて何を伝え

表一 拡大期から拡散期の

年 月	日本テレビ	TBS
1989 以前		
1990 平成2	2時のワイドショー 14:00~16:00 88年10月 ~92年10月	キャッチ 15:00~16:00 89年10月 ~92年3月
1991 平成3		
1992 平成4		モーニングEYE 8:30~10:00 (84年11月~森本 モーニングEYE として開始後 87年9月に改題) 87年9月~96年9月
1993 平成5	BEアップル2時 14:00~15:00 92年10月~93年4月	ごくらく生テレビ 15:00~16:00 92年4月 ~93年4月
1994 平成6		スーパーワイド 14:00~16:00 92年10月 ~96年5月
1995 平成7	ルックルック 8:30~10:00 79年4月 ~01年3月	
1996 平成8	おもいっきり テレビ 12:00~14:00 87年10月~	
1997 平成9		わいわい ティータイム ↑ 14:00~15:55 97年3月~9月
1998 平成10	ザ・ワイド 14:00~15:50 93年4月~	
1999 平成11		
2000 平成12		はなまるマーケット 8:30~10:20 96年9月~
2001 平成13	レッツ 8:30~10:25 01年4月 ~02年3月	
2002 平成14		ベストタイム 11:30~13:00 00年4月~04年3月
2003 平成15	ザ・情報ソウ 8:30~10:25 02年4月~	
2004 平成16		

ワイドショーの変容 (1990 ~ 2004)

二重線で囲ったものは2004年3月現在番組継続中

フジテレビ		テレビ朝日		
<p>3時に会いましょう 15:00~16:00 73年7月 ~92年10月</p>	<p>おはよう サイスディ 8:30~10:00 82年4月 ~99年3月</p>	<p>タイム3 15:00~16:00 88年4月~93年9月</p> <p>タイムアングル 14:00~15:30 93年10月 ~94年9月</p> <p>となりのババイヤ 15:00~16:00 93年10月 ~95年3月</p> <p>3時ヨコい! 15:00~16:00</p> <p>ビッグトゥデイ 14:00~15:55 95年10月 ~99年3月</p> <p>2時のホント 14:00~15:55 99年4月~00年3月</p> <p>F2 14:05~15:00 02年10月~</p>	<p>内田 モーニングショー 8:30~10:00 88年10月 ~93年4月</p> <p>独占女の60分 12:00~13:00 92年3月~9月</p> <p>スーパー モーニング 8:00~9:55 93年4月~</p> <p>ワイド スクランブル 12:00~13:55 96年4月~</p>	<p>こんには2時 14:00~15:00 82年10月~</p> <p>パワーワイド 13:55~15:00 95年4月~96年3月</p>
<p>素敵なあなた 15:00~15:55 96年9月~97年3月</p> <p>もぎたてサラダ 14:00~15:55 97年9月 ~98年9月</p> <p>ジャスト 14:00~15:55 98年9月~</p>	<p>とくダネ! 8:00~9:55 99年4月~</p>			

るかという価値観は、まず、「話題性」や「新奇性」にあり、「重要性」はさほど重視されてこなかったという（石田、1998）。この点はニュース番組におけるニュース報道とは大きく異なる点であろう⁶⁾。いずれの定義でも放送内容をまとめる概念として「情報」という言葉を用いていることが読み取れる。

また、石田を除いて定義として明確に示されていないが、「各局競争関係において横並びで放送する形式」という点も重要である。朝、昼、午後とほぼ同列に放送され各局が競争関係にあり視聴率を競っているという点である。この競争関係が、視聴率獲得のため、サッチー騒動の例に見るように、長期間、長時間の放映を持続させる結果となったり（江森、1999）、また、事件や事故の社会ニュースを刺激的な犯罪ショー化させ興味本位の娯楽情報へと転化させると指摘されているからである（鈴木、1992）。

1-3 ワイドショーの表現形式

前節の定義では触れられていないが、ワイドショーを他のジャンルから区別させるものとして、時間帯、内容などととも、ワイドショー独自の表現形式がある。

1964年の木島則夫モーニングショーの時代から「同時性の魅力」という観点で、事件の目撃者にスタジオに来てもらって直接真相を語ってもらう方法、または、現場から中継という手法を用いて司会者やレポーターがその報告を付け加えるという方式、さらに、できるだけ実物をスタジオに持ってきて提示するという手法が採られていたという（浅田、1987）⁷⁾。

また、情報提示の手段としてビデオ映像がしばしば用いられている。ビデオ映像の画面には、画面を見た瞬間にそのときの主題がわかるよう見出しが常時つけられる。これは、同時時間帯に放映されるワイドショーを見る視聴者によるザッピングを想定した画面構成となっているとともに、秒・分刻みの視聴率をめぐる競争原理がはたらいっているためという（石田、1998）。さらに、ビデオ映像には、効果音やナレーション、BGM、テロップを多用したドラマ仕立ての表現方式が用いられるとともに、繰り返し映像が多用される。ビデオ映像の一部分を取り上げ繰り返し放映するこの手法は、映像の持つ全体的な意味がもとの文脈から離れ、人々のステレオタイプのイメージを強調することになると指摘されている（藤竹、2002）。また、ビデオ映像の繰り返しや、午後のワイ

ドショーなど他番組における再利用による映像の反復が、既知の事実としての認識を促進させるという（石田、1998）。また繰り返す映像は、視聴者にビデオ映像の意味の再解釈を可能にするという指摘もある（川上、2004）。

また、「出演者らによる発言（おしゃべり、コメント）を伴うもの」という特徴も指摘できる。ワイドショーについて川上（2004）は、「レポーターがビデオ映像を用いて事件を説明するところからはじまります。レポーターは、スタジオのキャスターとコメンテータに向けて説明します。ビデオによる報告が終わると、キャスターがレポーターにいくつかの質問をし、ついでコメンテータに意見を求めます。ついでキャスター、コメンテータ、それにレポーターも加わり、この人物の行為や事件についてのおしゃべりがはじめられるのです」と述べる。ワイドショーにおいては、放送される内容の多くは、スタジオトークによってフォローされるという特徴があり、そのことが、同じ事件報道を扱っていても、ニュース番組とワイドショーを区別させるものとなっている。またワイドショーをさして「井戸端会議」と蔑称される所以でもある。

ワイドショーらしさの多くは、これらの表現形式に凝縮しており、ワイドショーに対する批判の多くが、これらに集約的に向けられているのも事実である。しかし、ワイドショー番組は、2時間の時間帯全体でワイドショー番組を構成しており、これらの特徴は、ワイドショーらしさの一部に過ぎない。ワイドショーらしさは、ワイドショー全体の構成によってもたらされるものである。本論文では、ワイドショーの全体構造を分析する中から、ワイドショーらしさをつくりあげるものを明らかにしたい。

1-4 ワイドショーを構成する基本形式

ワイドショーの中で「主婦」がどのように提示されているか分析した田中（2002）によると、ワイドショーの内容は、1）ニュース（報道系、芸能系）、特集（事件報道系、生活情報系、経済法律系）、その他（天気予報、夕刊読みなど）からなる「情報提供」と、2）企画コーナー（一般の主婦参加型コーナー）、ゲストコーナー（芸能人などをスタジオに招くコーナー）、クイズコーナーからなる「企画物」の2分野に分類できるという。しかし、我々の研究においては、ワイドショーを構成する基本形式として、「トピック形式」、「テーマ提示形式」および「ニュース形式」を提案したい。これら3つの形式は、現在

のワイドショーを構成する基本形式といえる。1番目のトピック形式とは、時事的要素を含んだ情報を多角的に取り上げるもので、特徴として次の3点が挙げられる。1) トピック形式は最新のニュース的要素をもち、その日に報道する必然性をもつものである。ワイドショーのはじめに放映されることが多い。2) トピック形式では、トピックに関してビデオ映像などによる報道後、スタジオにてビデオ映像の内容に関する整理、解説が行われ、出演者によるコメントや討議が行われる。3) トピック形式の放映の仕方(編集・構成)には、送り手による一定の方向性が示唆される場合が多い。トピック形式を具体的にみると、今回の対象では、「自衛隊のイラク派遣問題」が挙げられる⁸⁾。収録日の12月9日は、国会でイラク派遣に関しての審議が行われ基本計画が決定される予定であった。各ワイドショーでは、この閣議決定という日にイラク派遣の基本計画の全容を取り上げ、さらに、局によっては、自衛隊の家族の声をインタビューしたり、また他の局では、日本の国益への討議へと進展させたりしている。このような内容に構成されたビデオ映像を放送後、スタジオでは、さまざまに工夫を凝らした手法で解説を加え、その後、トピックに関して盛んな議論が行われる。現在進行中の出来事を取り上げ、ビデオ映像やその後の解説、トークの中に、制作側が、局、あるいは番組としての視点や見解をもち、さまざまな切り口から積極的に関わっていくことにより、トピック形式には一定の方向性が示される結果となっている。

2番目のテーマ提示形式は、特定のテーマを主題として取り上げ、その主題に関するさまざまな情報を付加しながら深く掘り下げるもので、次の3点を特徴とする。1) テーマ提示形式は、時節的な要素をもつ場合はあるものの、速報的要素は必要としない。2) あるテーマを取り上げビデオ映像などで提示後、スタジオにて、出演者間での論評を含めたコミュニケーショントークを行う。3) 「企画」または「特集」という形での提示が多い。テーマ提示形式の例としては、フジテレビのとくダネで取り上げている「クリスマス特別企画」などが挙げられる。内容としては、クリスマスを楽しく過ごす方法として東京ディズニーリゾートを提案し、この時期の耳寄り情報などを紹介している。収録した日は12月に入っているもので、クリスマス当日というわけではないが、そろそろクリスマスシーズンという時期である。放映のタイミングとしては、この日に限ることはなく、前日でも、2～3日後でもなんら支障はない。大事件など

が起り緊急ニュースの必要性が生じた場合はカットされ後日にまわされる可能性もある。このような場合だけでなく、放映順をみても、トピック形式との大きな違いは、トピック形式のほうがテーマ提示形式より優先されることにもある。

3番目のニュース形式とは、従来のニュース報道の手法を取り入れニュースを紹介するもので、ニュース提示だけの「ニュース形式」と、ニュース提示だけで終了せずニュース提示の後スタジオトークを含む「ニュース形式トークあり」がある。次に挙げる3つの特徴をもつ。1) ニュース情報提供がビデオ映像の場合には、①無音声のビデオ映像を放送しながら、アナウンサーがニュース原稿をよむ形式や、②アナウンサーがリード部分を読み、その後ナレーション付のビデオ映像を放送する形式など、形態はバリエーションをもつ。2) ニュース情報提供が他メディアをソースとする場合には、新聞だけでなく週刊誌からのニュース記事を用いて紹介する場合もある。3) ニュース1項目の放送時間は、「トピック形式」や「テーマ提示形式」より比較的短く、1～5分程度である。

上記3つのトピック形式、テーマ提示形式、ニュース形式以外のものを「その他の形式」とする。その他の形式を大別すると次の2つに分けられる。1) オープニングとエンディング、2) 天気予報、占い、電話ショッピングなどの項目である。オープニングとエンディングにおいては、司会者の挨拶が基本パターンとなっているが、挨拶だけでなく、オープニング時に簡単な放送内容の紹介をしたり、エンディング時に明日の予告をしたりすることもある。またオープニングに関しては、必ずしも番組のはじめに放送される場合ばかりではなく、冒頭にメインピックを放送のあとオープニングとなる場合もある。また、占い、電話ショッピングなども番組を特徴付ける一要素となっている場合もある。

田中の分類と前述の3形式の概念による分類との関連性を検討する。田中による1)の「情報提供」をみると、この場合の「ニュース(報道系、芸能系)」と「その他・夕刊読み」は、本論文において定義する「ニュース形式」にあたる。さらに、田中の分類による「特集(事件報道系)」は「トピック形式」に、「特集(生活情報系)」は「テーマ提示形式」に、そして、「特集(経済法律系)」は時事的な内容であるか否かによって「トピック形式」か「テーマ提示形式」

に該当させることができよう。2) の「企画物」は「テーマ提示形式」に該当すると思われる。

1-5 分析目的

これまでの研究を見ると、田中の例に見られるように、取り扱われる内容項目を中心に行った分析はあっても、構造上の形式という視点からワイドショーを全体的に分析した研究は見当たらない。そこで、本論文では、ワイドショーの基本形式として、「トピック形式」、「テーマ提示形式」、「ニュース形式」という3つの基本概念を提示し、これらの要素がワイドショーの全体構造にどのように関わっているのかを実証的に明らかにする。ついで、情報提供における情報媒体の一つであるビデオ映像を取り上げ、ビデオ映像の使用がこれらの基本3形式においてどのように用いられているのかも検討したい。最後に、スタジオ場面に焦点をあて、スタジオトークの形式やトーク進行の形態などこれから基本形式との関連性を検討する。

2 研究方法

2-1 分析対象と番組の録画日

現在ワイドショーとみなされる番組は、平日に関して表-1に示したように多数にのぼる。本研究では、東京の民放4局、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日について、各局の代表的なワイドショーを各1番組ずつ選定した。選定に当たっては、全体として午前2番組、午後2番組となるようにした。分析対象と当日の視聴率を表-2に示す。

また録画は、2003年12月9日(火曜日)放送分をビデオ録画した。分析目的を、通常のワイドショーの構造を明らかにすることにおいたので、緊急事件の発生などにより番組放送時間の変更されたり、番組内容の編成が普段と異なることのない日を選定した。このような懸念がなかったので、2003年12月9日放送分のビデオを本研究の分析対象に用いることとした。

表-2 分析対象とした番組と当日の視聴率

放映局	番組名	放映時間帯	視聴率% (注)
フジテレビ	とくダネ!	8時00分～9時55分	10.1%
日本テレビ	ザ・ワイド	13時55分～15時50分	6.9%
TBS	ジャスト	14時00分～15時50分	5.9%
テレビ朝日	スーパーモーニング	8時00分～9時55分	6.2%

注 視聴率はビデオリサーチ調べで、2003年12月9日のものである。

2-2 番組構成表の作成と内容分析

ビデオ録画したワイドショー4番組に関し番組構成表を作成した。番組構成表の作成方法については、萩原(2001)を参考とした。本研究の目的がワイドショー番組の特徴的部分についての限定的なものではなく、番組全体の把握を目的としているので、番組構成表は基本データとして重要な意味を持つ。番組構成表の主要項目は、番組の1)局名、2)番組名、3)放送時間、4)出演者名、そして、放送内容に関し、それぞれの項目ごとに5)終了時間と、6)主要な内容、ビデオ映像の有無、ナレーションの有無、スタジオトークの有無などを記入した。

(1) ワイドショーの基本形式の確認

番組ごとの放送内容(上記の分析項目6に当たる)を取り上げ、項目ごとに基本形式の確定を行った。項目ごとに1)トピック形式、2)テーマ提示形式、3)ニュース形式、4)その他の形式のいずれに該当するかを決定した⁹⁾。尚、分析に当たっては、筆者ら4人が評定した。あわせて、情報提示の形態とこれら3形式との関連を分析した。

(2) スタジオトーク

次に、番組ごとに、ワイドショーのスタジオトークに焦点をあて、内容分析を行った。分析に際しては、各番組共通の項目(「向井亜紀に双子誕生」「電気コードで乳児感電」)を2つ取り上げ、スタジオにおけるトーク場面のスクリプトを作成し検討した¹⁰⁾。加えて、他の項目においても、トークの進行パターンをみるために、スタジオでの発言順序を拾い上げた。分析に当たっては、筆者ら計4人が評定した。分析の視点は次の2点である。1)スタジオトークの

形式（時間、人数と解説の程度）2）トークの進行（進め方の特徴、発言形式と雰囲気）である。

3 結果

3-1 ワイドショーの基本形式の概略

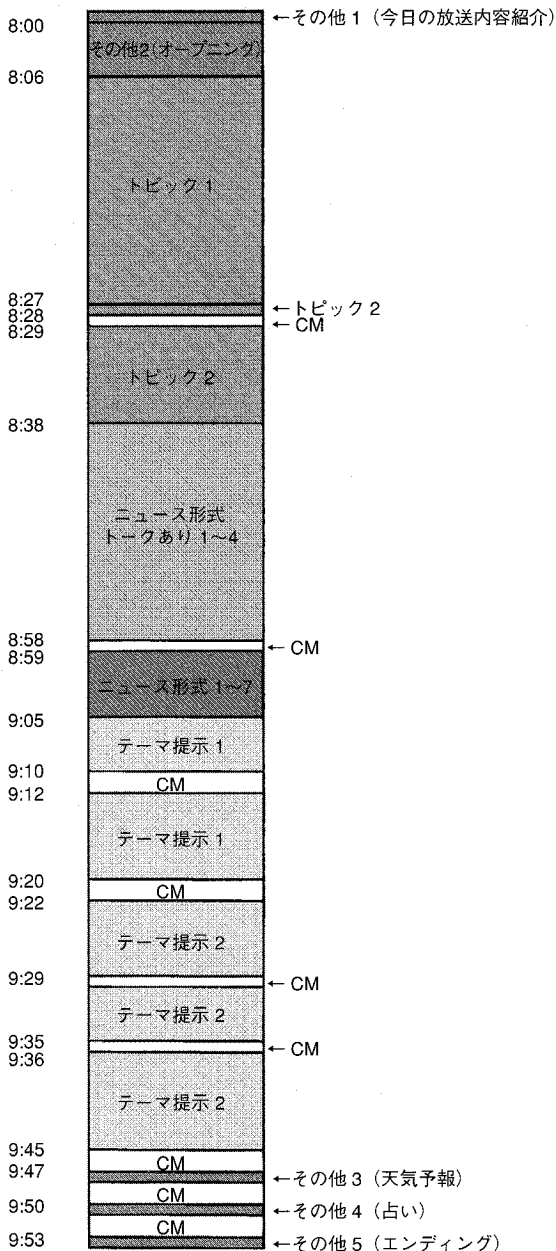
まず、ワイドショーの基本形式について、フジテレビの「とくダネ」を例に概観する。表-3および、図-1は、「とくダネ」についての番組構成表と、番組の構造を基本形式を用いて分析し概念化した結果を図示したものである。番組の概略の流れに沿ってみると、冒頭に今日の放送内容紹介として、4項目のビデオ映像が1分程度放映される。それに続いてオープニングトークがある。司会者によるトークに続いてコメンテーターのコメントがある。次に「トピック形式1」が続く。収録日は国際・政治に関する時事的な内容を取り上げたナレーター付のビデオ映像が20分程度放映される。その後、スタジオ場面では、取材活動を行ったレポーターが、ビデオ映像に関しボードや写真、さらには、ビデオ映像の一部を再度用いながら、わかりやすく、かつ、詳細にわたる説明を加える。次のトークは主に司会者を軸として展開され、スタジオにいるコメンテーターなどの参加により論議が行われる。収録日は、特別ゲストが専門家として加わり、内容に関し多角的な視点から、さらに状況を補足した解説を行い、解釈を加える。その間、スタジオの正面にある画面では背景的に、はじめに内容を紹介したビデオ映像の同じ場面が今度は音声を消して、再度、そして、繰り返し放送される。その後、コメンテーターが意見を述べ、それに対し、特別ゲストが応答する形でトークは進展する。次の「トピック形式2」では、収録日は社会に関する内容が10分程度放映される。スタジオ場面では、レポーターが解説をした後、司会者を中心にコメンテーターを交えトークが行なわれる。

続いて、内容に関するトークを含んだ形式のニュース「ニュース形式トークあり1から4」が、各4分から6分程度、延べ20分程放映される。ビデオ映像の放映ではコーナー担当のレポーターがナレーションを加える。収録日の内容は、放映順に芸能、社会、スポーツ、そして再び社会に関するニュースが取り上げられる。コーナーを担当するレポーターを中心に、コメントは司会者やコ

表-3 フジテレビ「とくダネ」番組構成表

局名 フジテレビ		番組の構成	
月日 2003年12月9日(火)			
番組名 とくダネ			
放送時間 8:00~9:55			
出演者 小倉智昭(司会)		前田忠明(芸能レポーター)	
佐々木恭子(司会)		室井佑月(コメンテーター、作家)	
笠井信輔(レポーター)		佐藤光剛(コメンテーター、弁護士)	
大村正樹(レポーター)		小川和久(コメンテーター、軍事アナリスト)	
平野早苗(レポーター)		跡田直澄(コメンテーター、慶応大学商学部教授)	
乾貴美子(レポーター)			
春日由美(レポーター)			
終了時間	進行(内容)	番組の構成	
8:01	今日の内容 ビデオ映像(イラク派遣「基本計画」全容・向井亜紀(39)に双子誕生・シリーズ年金改革など)	その他1: 今日の放送内容紹介 時間: 延べ1分程度	
8:06	オープニングトーク スタジオ	ナレーションのついたビデオ映像で放送内容を紹介 その他2: オープニングトーク 時間: 5分~6分 スタジオにて司会者他3人によるトーク	
8:10	今日「基本計画」決定へ テロ攻撃を想定	トピック1: イラク派遣「基本計画」全容 時間: 20分程度 ビデオ映像によるニュース内容の紹介後、ニュース内容(詳細事項、キーワード、ニュースのポイントなど)をレポーターが整理し、レポーター、司会者を中心にスタジオトーク	
8:27	スタジオ		
8:28	虐待の痕跡も?電気コードで感電させ乳児重態…34歳父逮捕	トピック2: 34歳父乳児を感電死させ逮捕	
8:29	CM	時間: 10分程度	
8:32	虐待の痕跡も?電気コードで感電させ乳児重態…34歳父逮捕	ビデオ映像によるニュース内容の紹介後、ニュース内容(詳細事項、キーワード、ニュースのポイントなど)をレポーターが整理し、レポーター、司会者を中心にスタジオトーク	
8:38	スタジオ		
8:39	とくダネTIMES	ニュース形式トークあり1~4: とくダネTIMES(前半)	
8:40	無事成功 向井亜紀代理出産	時間: 各4分~6分程度/延べ20分程度	
8:43	スタジオ		
8:45	3歳児は見えていた?34歳母親殺害の一部始終	レポーターによるタイトル紹介の後、ビデオ映像、新聞記事を用いてニュース内容を示し、レポーター、司会者を中心にスタジオトーク	
8:47	スタジオ		
8:48	ゴジラより高評価!?		
8:51	ビデオ		
8:54	スタジオ		
8:56	新居にドカン相手宅に突っ込んだ女		
8:57	スタジオ		
8:58	カメラがとらえたナノの光…		
8:59	生CM 花王		
9:00	夜空に浮かぶ謎の火の玉		
9:00	「青空カラオケ」撤去へ最悪通告		
9:01	ロシア下院選 ブーチン与党圧勝	ニュース形式1~7: とくダネTIMES(後半)	
9:02	宇多田ヒカル3年半ぶり武道館ライブ	時間: 各1分程度/延べ6分程度	
9:03	韓国・南極基地で8人遭難	ビデオ映像とともにレポーターがニュース内容を紹介	
9:04	稚子さま退院 今日40歳お誕生日		
9:05	最新映画ランキング		
9:10	淑女(レディ)で行こう。クリスマス特別企画東京ディズニーリゾートSP	テーマ提示1: クリスマス特別企画 東京ディズニーリゾートSP	
9:12	CM	時間: 15分程度	
9:17	クリスマス特別企画(続き)	ビデオ映像による内容の紹介後、内容(詳細事項、キーワード、耳より情報など)をレポーターが整理し、レポーター、司会者を中心にスタジオ	
9:20	スタジオ		
9:22	CM		
	シリーズ年金改革	テーマ提示2: パート主婦たちの年金	
9:24	パート主婦たちの年金 スタジオ	時間: 15分程度	
9:29	ビデオ	ビデオ映像による内容の紹介後、内容(詳細事項、キーワード、耳より情報など)をレポーターが整理し、レポーター、司会者を中心にスタジオ	
9:30	CM	トーク	
9:35	パート主婦たちの年金 スタジオ		
9:36	CM		
9:39	パート主婦たちの年金 ビデオ		
9:45	スタジオ		
9:47	CM		
9:48	今日の天気	その他3: 天気予報	
9:50	CM	時間: 1分程度 お天気カメラ映像とともに女性司会者による天気予報	
9:51	今日の占い 血液型選手権	その他4: 占い	
9:53	CM	時間: 1分程度 ナレーションのついたビデオ映像で内容を紹介	
9:53	エンディング スタジオ	その他5: エンディング 時間: 1分弱 スタジオにて司会者を中心に今日のまとめ(一言程度)とあいさつ	

図一 1 フジテレビ「とくダネ」の構造



メンテーター、芸能レポーターが加わりスタジオトークが行なわれる。続いて、ビデオ映像を流してニュースを紹介する「ニュース形式1から7」が各1分程度、延べ6分程度放映される。今度はスタジオトークなしでニュースのみの放送である。収録日の内容は、「ニュース形式1」が風物、「ニュース形式2」が社会、「ニュース形式3」が国際・政治、「ニュース形式4」が芸能、「ニュース形式5」が国際・社会、「ニュース形式6と7」が風物に関するものであった。

番組開始より1時間ほど経過後、軽快な音楽をバックに「テーマ提示形式1」として、時節の話題（クリスマス関連）がCMをはさんで15分程度放映される。特別企画と題したナレーター付きのビデオ映像ではレポーターが主役となり見所を紹介する。その後のスタジオ場面では、司会者の質問に答える形でレポーターが体験をもとに応答したり、新情報（お役立ち情報）を提供する。さらに、コメンテーターが加わりスタジオトークが行なわれる。トークの間中、軽快な音楽がバックに流れ雰囲気盛り上げる。次の「テーマ提示形式2」は社会問題に関して15分程度の放映であり、レポーターにコーナーゲストが加わり、司会者、コメンテーターによるトークが行なわれる。収録日は年金に関するテーマが提示される。このあと、天気予報、占いが各1分程度あり、スタジオでエンディングとなる。

表-4、図-2は、日本テレビ「ザ・ワイド」の、表-5、図-3は、TBS「ジャスト」の、表-6、図-4はテレビ朝日「スーパーモーニング」の分析結果である。これらを参考にして以下に分析した結果を述べる。

3-2 トピック形式とテーマ提示形式

まず、ワイドショーの基本形式のうち、「トピック形式」と「テーマ提示形式」の分析結果について述べる。表-7は、番組別に見た各形式が放送時間に占める割合を示したものである。いずれの番組においても、トピック形式とテーマ提示形式の2形式の合計が、56%から76%を占めている。番組によっては4分の3以上を占める。

表-4 日本テレビ「ザ・ワイド」番組構成表

局名 日本テレビ		
月日 2003年12月9日(火)		
番組名 ザ・ワイド		
放送時間 13:55~15:50		
出演者 草野仁(司会) 岩田公雄(解説委員) 森宮美(司会) 南美希子(コメンテーター:タレント) 野沢佑一(レポーター) 有田芳生(コメンテーター:ジャーナリスト) 藤井恒久(レポーター) 鳥井守幸(コメンテーター:南京平城大学教授) 右松健太(レポーター) 久能靖(アナウンサー)		
終了時間	進行(内容)	番組の構成
14:08	まもなく閣議決定! 自衛隊派遣基本計画の内容	トピック1:自衛隊イラク派遣基本計画 時間:25分程度
14:21	オープニング スタジオ	ナレーションのついたビデオ映像でニュース内容紹介後、スタジオでオープニングの挨拶(20秒)。
14:24	向井亜紀が双子のママに 米国女性が代理出産	ニュース内容を、記者がキャスターの質問に対し派遣先から報告、解説、回答する。その後、解説委員による整理、解説があり、キャスターを中心にゲストによるスタジオトーク
14:26	スタジオ	
14:34	乳児をコードで感電 傷害容疑で父親逮捕	
14:38	スタジオ	
14:40	女性看護師「殺害の自宅に …おびえる3才女児	トピック2~6 時間:各5分から15分/延べ50分
14:47	CM 続き	ナレーションのついたビデオ映像でニュース内容紹介後、ニュース内容を、キャスターが整理、解説
14:50	スタジオ	キャスターを中心にゲストによるスタジオトーク
14:59	ヤワラちゃん&谷選手 ヨーロッパ新婚旅行	
15:07	雅子様、きょう40歳誕生日 きのう退院、気になるご病状は	
15:14	スタジオ	ニュース形式トークあり1~6:特ダネファイル
15:26	特ダネファイル 「防犯カメラは見ていた」盗まれた犬 見つかる 小池・サトエリ・まりやあでやか晴れ 着撮り会 雛形あきこ離婚後の心境語る 建て替え発表「丸ビル」の隣に「新丸 ビル」 新人アナ右松が行く、群馬四方温泉	時間:各1分程度(最後のみ9分)/延べ15分程度 コーナー担当のアナウンサーがビデオ映像で次々ニュースを紹介。その後、最後のニュース内容について担当レポーターがスタジオで整理、解説しゲストトーク
15:28	スタジオ	その他1:電話ショッピング
15:30	電話ショッピング	時間:2分
15:35	NEWS撮って出し 阪神大震災火災保険金、裁判で住 民敗訴 万引き男、店員をボンネットに乗せ たまま逃走 女子中学生、路上で切りつけられる 天気(大雪)	ビデオ映像の中で商品紹介 ニュース形式1~6:NEWS撮って出しなど 時間:各1~2分程度/延べ10分 ビデオ映像を見ながらキャスターがニュースを読む
15:37	CM	
15:38	冬のひまわり	
15:40	CM	
15:41	そば作り	
15:44	CM	
15:45	スタジオ明日の予告	その他2:エンディング 時間:1分
15:50	CM	明日の予告と挨拶

図-2 日本テレビ「ザ・ワイド」の構造

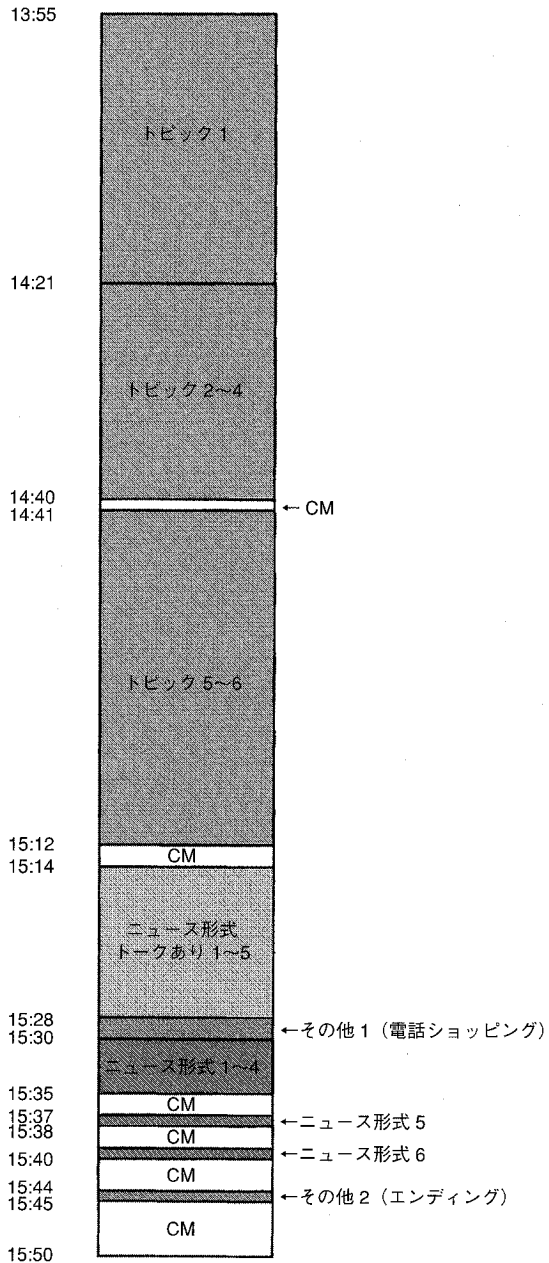


表-5 TBS「ジャスト」番組構成表

局名 TBS			
月日 2003年12月9日(火)			
番組名 ジャスト			
放送時間 14:00~15:50			
出演者 三雲孝江(司会)		川口和久(スポーツコメンテーター)	
藤森祥平(司会)		黒田知永子(コメンテーター、モデル)	
渡辺好明(レポーター:芸能デスク)		四方義明(ファッションプロデューサー)	
岡田泰典(アナウンサー:ニュース)		バックンマックン(新聞記事担当)	
終了時間	進行(内容)	番組の構成	
14:01	向井蓮紀念願の赤ちゃん誕生	ニュース形式トークあり1~3	
14:03	萩原聖人離婚後公の場所に初登場	時間:各1分~3分程度/7分程度	
14:04	有名人がデザインジュエリー展&オークション	ビデオ映像によるニュース内容の紹介後、ニュース内容(詳細事項など)についてレポーターが解説し、オープニングの挨拶(20秒)の後、内容に関し司会者中心にスタジオトーク	
14:07	オープニング スタジオ		
14:09	CM	テーマ提示1:ベストドレッサー	
14:17	ベストドレッサーの話	時間:10分程度	
14:18	スタジオ	ビデオ映像で内容を紹介しながら、アドバイザーが解説をする。ビデオ映像終了後、内容に関して、スタジオトーク	
14:19	前振り 芸能ニュース	ニュース形式トークあり4~8	
14:21	CM	時間:各1分程度/延べ4分程度	
14:22	うただひかる結婚後初ライブ決定	新聞記事を読み上げニュースを紹介後、解説を加える	
14:23	聖子怪我後のディナーショーは		
14:23	白井けん 店長限定バーオープン		
14:24	雅子さま今日40歳		
14:25	ニモが千と千尋を抜いて新記録		
14:26	ストーカー殺人	ニュース形式1~3	
14:27	テレビ番組を無断販売	時間:各1分程度/延べ3分程度	
14:28	震災住民が逆転敗訴	ビデオ映像とともに、アナウンサーがニュースを伝える	
14:29	次の特集の前振り	テーマ提示2:再就職ミセス	
14:31	CM	時間:20分程度	
14:48	鎌ミセス 柏崎えみさん40歳	ビデオ映像によるニュース内容の紹介後、ニュース内容	
14:49	スタジオ	について司会者を中心にスタジオトーク	
15:00	2003年芸能界出産総集編	テーマ提示3:芸能界の出産・子育て	
15:26	芸能人子育て100回スペシャル	時間:50分程度	
15:28	CM		
15:36	人生をきめた子供の一言編	ビデオ映像によるニュース内容の紹介後、ニュース内容	
15:38	CM	について司会者を中心にスタジオトークというパターンを4回繰り返す	
15:39	ニュース 派遣計画めぐり党首会談	ニュース形式4~7	
15:39	年金改革で財界アビール	時間:各1分程度/延べ3分程度	
15:40	民主党ディーン候補リード	ビデオ映像とともに、アナウンサーがニュースを伝える	
15:41	煙囪施設に立ち入り検査		
15:43	ジャストショッピング	その他1:電話ショッピング	
		時間:2分程度	
		ビデオ映像で内容を紹介	
15:44	CM		
15:44	エンディング	その他2:エンディング	
15:50	CM	時間:1分弱	
	終了	スタジオにて司会者による挨拶	

図-3 TBS「ジャスト」の構造

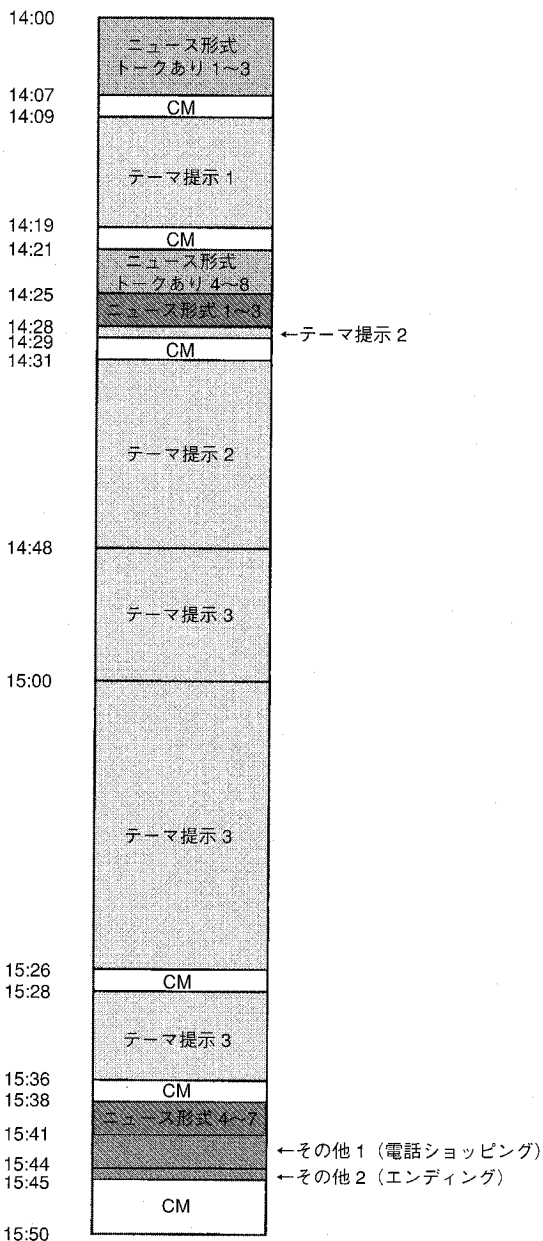
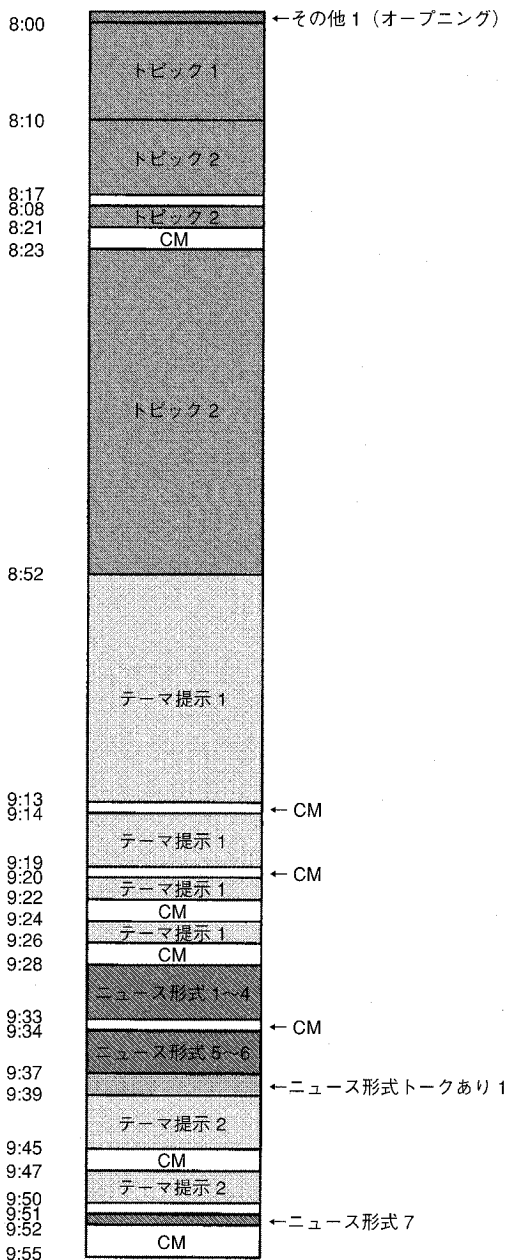


表-6 テレビ朝日「スーパーモーニング」番組構成表

局名 テレビ朝日	
月日 2003年12月9日(火)	
番組名 スーパーモーニング	
放送時間 8:00~9:55	
出演者	
渡辺寛嗣(司会)	井筒監督(コメンテーター:映画監督)
赤江珠緒(司会)	石坂 啓(コメンテーター:漫画家)
みといせいこ(レポーター)	髙橋俊太郎(コメンテーター:ジャーナリスト)
井口成仁(レポーター)	自民党議員(ゲスト:トピック2以降)
玉川 徹(レポーター)	民主党議員(ゲスト:トピック2以降)
女性レポーター	拓殖大学教授(ゲスト:トピック2以降)
終了時間	番組の構成
進行(内容)	
オープニング	その他1:オープニング 感電虐待の件の映像から始まりタイトル紹介。
8:06 4歳児に父親が感電虐待	トピック1:幼児感電虐待
8:10 スタジオトーク(8:06~8:10)	時間:10分 ナレーターつき映像で内容紹介後 スタジオでレポーターの図解など用いた詳細な説明。 その後、スタジオトーク
8:17 自衛隊イラク派遣基本計画閣議決定 スタジオトーク(8:23~8:31)	トピック2:自衛隊イラク派遣計画と国益 時間:40分程度
8:18 CM	ナレーターつき映像で内容を紹介します。
8:21 イラク スタジオつづき	スタジオで司会者による説明。その後スタジオトーク
8:23 CM	無反動砲の実演あり
8:31 イラク スタジオつづき	このパターンを2回繰り返し
8:40 自衛隊イラク派遣と日本の「国益」	
8:52 スタジオトーク(8:40~8:52)	
9:03 議員特権の是非	テーマ提示1:議員特権と年金
9:07 スタジオトーク(9:03~9:07)	時間:35分程度
9:13 裁判で有罪となった議員と議員年金 スタジオトーク(9:20~9:28)	ナレーターつき映像で内容を紹介します スタジオでトーク
9:14 CM	このパターンを2回繰り返し
9:19 スタジオ つづき	
9:20 CM	
9:22 スタジオ つづき	
9:24 CM	
9:26 スタジオ つづき	
9:28 CM	
9:30 看護師殺害事件	ニュース形式1~6:スパモニあれこれ 時間:各1分程度/延べ8分程度
9:31 萩原聖人 離婚後一人でクリスマス	ニュース形式1,4はナレーターつき映像でニュースを紹介。
9:32 雅子さま 誕生日	そのほかのニュース形式は、スタジオのレポーターが映像を 見ながら スタジオで各内容を説明する形式。
9:33 福岡いじめ裁判 550対0の構図	
9:34 CM	
9:36 ヒョウ柄の車ローバー ミニ	
9:37 石原プロ ドラマ会見	ニュース形トークあり1:スパモニあれこれ
9:39 向井亜紀 代理出産成功 (短いスタジオトーク含む)	時間:2分 レポーターがスタジオで映像を使って説明後、 スタジオレポーターがさらにくわしく解説。 その後スタジオトーク
9:45 80年代ブーム(ミニコーナー的扱い)	テーマ提示2:80年代ブーム
9:47 CM	時間:10分
9:50 80年代ブーム 続き	ナレーター付映像で内容紹介後 スタジオトーク
9:51 CM	
9:52 韓国南極観測隊の遭難	ニュース形式7
9:55 CM	時間:1分
終了(次の番組開始)	ニュース映像を流す

図-4 テレビ朝日「スーパーモーニング」の構造



表一七 番組別に見た各形式の占める割合

	フジテレビ		日本テレビ		TBS		テレビ朝日	
	とくダネ!		ザ・ワイド		ジャスト		スーパーモーニング	
トピック形式	2	26%	6	66%	0	0%	2	42%
テーマ提示形式	2	30%	0	0%	3	66%	2	34%
ニュース形式（トーク有り）	4	17%	5	12%	8	10%	1	2%
（トークなし）	7	5%	6	7%	7	5%	7	8%
その他の形式	5	8%	2	3%	2	4%	1	1%
CM（回数）	9	14%	6	13%	6	15%	10	14%
総時間数（分）	115分		115分		110分		115分	

注 数字は回数を示す。

さらに、これら2形式の扱い方により、ワイドショーを大きく3つに特徴づけ分類することができる。つまり、個々の番組は、1) トピック形式のみ、2) テーマ提示形式のみ、3) トピック形式とテーマ提示形式の両方という3パターンに大別できる。トピック形式とテーマ提示形式の両方を含む3) のケースでは、トピック形式がショーの初めに放映され優先される。とりわけ、トピック形式1（番組中の最初のトピック）やトピック形式2（番組中の2番目のトピック）がショーの中心となる。それに引き換え、テーマ提示形式は重大事件が発生する場合、緊急ニュースに置き換えられる可能性を持つ。

日本テレビのザ・ワイドは、1) トピック形式のみ6項目からなり、取り上げている内容は政治、社会、芸能に関するものがそれぞれ2項目ずつとなっている。一方、TBSのジャストは2) テーマ提示形式のみ3項目を取り上げ、内容は、芸能に関する2項目、話題に関する1項目である。フジテレビのとくダネとテレビ朝日のスーパーモーニングは3) トピック形式とテーマ提示形式の両方という構成になっており、両番組とも2形式について、それぞれ2項目ずつを取り上げている。内容を見ると、トピック形式では政治と社会に関する項目が1項目ずつ、テーマ提示形式では社会と話題に関する項目が1項目ずつである。これら4番組をみると、政治に関する項目はトピック形式、話題に関する項目はテーマ提示形式に見られ、一方、社会と芸能に関する項目はトピック形式とテーマ提示形式の両形式において見られる。

トピック形式重視なのか、テーマ提示形式重視なのかにより、局ごとに特徴が見られ、その違いが番組全体の印象や、スタジオにおける雰囲気の違いへつながり、出演者間のトークパターンにも影響を与えている。

3-3 ニュース形式

ワイドショー構成要素のもう一つ概念であるニュース形式だが、「ニュース形式」と「ニュース形式トークあり」があり、すべての番組においてこれらの両パターンがみられる。さらに、情報提供の方法をみると、1) ニュース報道の手法による最も典型的な情報提供で、ナレーター付のビデオ映像を用い、スタジオのアナウンサーがニュースを紹介する形式と、2) 活字メディアをそのままスタジオ内で提示し、スタジオのアナウンサーが記事を読み上げニュースを紹介するパターンがある¹¹⁾。この後者のパターンでは、送りがニュース紹介後、コメントを加えることも多い。

テレビ朝日のスーパーモーニングと日本テレビのザ・ワイドでは、1) の形式をとっている。スーパーモーニングのニュース形式では、ナレーター付のビデオ映像を用いて社会に関する3項目、芸能に関する2項目、話題に関する2項目を紹介し、加えて、芸能に関する1項目をニュース形式トークありとして取り上げている。また、ザ・ワイドでは、ナレーター付のビデオ映像によるニュースの紹介だけでなく、無音のビデオ映像をベースにしてニュース原稿を読み上げる方式の両方を採用している。ナレーター付のビデオ映像による紹介は社会に関する3項目、風物に関する3項目を取り上げ、ニュース形式トークありとして、紹介後トークを行っている。また、ビデオ映像をベースにしてニュース原稿を読み上げる方式を用いたニュース形式の放映内容を見ると、社会に関する2項目、芸能に関する2項目、風物に関する1項目となっている。

さらに、TBSのジャストとフジテレビのとくダネでは、1) と2) の両方の形式を採用している。ジャストでは、ニュース形式トークありとして8項目紹介しているが、後半は、ビデオ映像は使わず、他メディアの情報として新聞記事を掲示し、記事の読みとコメントが行われている。取り上げている内容は芸能に関する6項目、話題に関する2項目となっている。とくダネでは、ビデオ映像を放映しながらアナウンサーがニュースを読むパターンを中心に、風物に関する3項目、社会に関する2項目、政治に関する1項目、芸能に関する1項

目の合計7項目をニュース形式で紹介している。さらに、社会に関する2項目、芸能に関する1項目、スポーツに関する1項目の合計4項目を「ニュース形式トークあり」として紹介している。このうち、芸能とスポーツに関しては、ビデオ映像の前、または、後に新聞記事を提示し説明を行うパターンをとっている。

3-4 情報提供としてのビデオ映像

分析結果をみると、情報提供の手段として、多くの場合ビデオ映像が用いられる。ビデオ映像の多用は、トピック形式、テーマ提示形式、ニュース形式にとどまらず、電話ショッピングや占いなどその他の項目に及ぶ。ただし、ニュース形式で他メディアに情報源を求めるケースは例外である¹²⁾。しかし、その場合にも報道量の占める時間は2時間番組においてせいぜい合計5分程度と短く、どちらにしても、ビデオ映像が主流の情報源となっている。TBSのジャストとフジテレビのとくダネには、他メディアを情報源とするニュース形式が見られるが、前者で延べ4分程度、後方で1分程度である。また、とくダネでは、ビデオ映像以外に、1分程度の生CMと1分程度のカメラ映像を用いた天気予報も見られるが、合計2分ときわめて少ない。さらに、日本テレビのザ・ワイドとテレビ朝日のスーパーモーニングにおいては、すべての情報提供における基本がビデオ映像にある。

加えて、このビデオ映像は、内容紹介時に限らず、その後のスタジオ場面でも多用される。ビデオ映像にて内容紹介後、スタジオでレポーターなどによる解説が加えられる場面では、解説内容に合わせて放映済みのビデオ映像の一部を再度提示する。さらに、その後のスタジオトークでも利用され、トークの背景に、または、前面に、今度は音声を消したビデオ映像が再放映される。このような、ビデオ映像の再利用は4番組すべてにおいて見られ多用されている。

さらに、ワイドショーで放映されるビデオ映像は、多くの場合(特に、トピック形式とテーマ提示形式において)、ニュース報道では伝えられない付加的信息が提示される。事件報道におけるビデオ映像をみると、コンピュータグラフィックスによる事件の再現、色や大きさや形態が時と場合に応じて変化するテロップの使用、状況に応じて変化する送り手の声の大きさやトーンにマッ

チした効果音やBGM、さらには、選定された繰り返し映像が使用される。例えば、日本テレビのザ・ワイドで時事問題を取り上げた「トピック形式1」では、ストーリーに沿った合成映像、スロー映像、映像停止、繰り返し映像、時には、白黒映像が用いられ、その多くは、同局における朝のワイドショーで放映済みのものを再度使用している。一方、ニュース形式におけるビデオ映像をみると、映像時間もきわめて短く1分程度で、トピック形式とテーマ提示形式の場合とは異なっている。当然のことながら、情報源の特質により情報の性質が規定される。(表-8参照)

表-8 情報提示とスタジオトークの形式と進行

		トピック形式*	テーマ提示形式	ニュース形式		
				トークあり	トークなし	
情報提示	媒体	ビデオ映像	ビデオ映像	ビデオ映像・他メディア		
	付加	付加情報あり	付加情報あり	付加情報なし		
スタジオトーク	トーク形式	概観	時間	長い	長い	短い
		人数	多い	多い	少ない	
	解説	解説程度	詳細な解説	詳細な解説	簡単な解説	
	トーク進行	特徴	複合的トーク	複合的トーク	複合的トーク・単発的コメント	
		発言形式	規則的	不規則的	規則的	
		(順番)	完結的	発展的	簡略的・完結的	
		雰囲気**	比較のハード	ソフト	ニュートラル	

* トピック形式は何よりも優先される

** 雰囲気は発言形式(順番)によるものが大きい。取り上げる主題(政治問題か芸能かなど)によっても多少変化する。

3-5 スタジオトーク場面(スタジオトークの形式)

ビデオ映像終了後、まず、スタジオでは、レポーターを中心に、内容についての解説を行う。その際、実物大の模型や地図の使用、時には現物を持ち込むなど、さまざまな情報を付け加えながら番組を展開する。実際、収録日には、図解による解説方法も4番組においてみられ、それに加え、フジテレビのとくダネとテレビ朝日のスーパーモーニングのトピック形式では、工夫を凝らした模型を用意し提示したり、スーパーモーニングでは実演を行っている。

続く、スタジオにおけるトーク場面では、出演者は質問やコメントを行う。例えば、まず、司会者からの振りで、放映されたビデオ映像について、コメンテーターが質疑を行う。それを受け、現場取材を行ったレポーターや専門知識をもつ記者が、整理しわかりやすい説明を加え、さらに、新たな情報を補足する。司会者やコメンテーターは疑問に関する回答を得ると共に、新情報を受けそこで抱いた新たな疑問に関し、それを再びレポーターや記者に質問する。その後、コメンテーターは、さまざまな意見を主張し、互いに論議する。ここでは、司会者とコメンテーター間で、一つの話題について、発話が複数あり相槌がうたれるなどのやり取りが何度も繰り返される複合的なトークという形態をとる。このようなトークパターンは、ザ・ワイド、とくダネとスーパーモーニング3番組に見られ、トピック形式を中心に多用される。テーマ提示形式においても、複合的パターンが同様に用いられるが、例えば、テーマ提示形式のみのジャストにみるように、スタジオトーク場面ではコメンテーター間で論議へと発展するかわりに、コメンテーターによる感想などが寄せられる。

また、ニュース形式におけるスタジオトークの時間は、トピック形式とテーマ提示形式に比べ短い。レポーターが少し解説し、それに加え、コメンテーターのうち1人（または、2人）が単発的に一言コメントをするという形式を採る場合と、数人が短時間ではあるが、やり取りを行う複合的トークを採る場合がある。どちらにしても、トピック形式とテーマ提示形式に比べ、コメンテーター間での活発な論議に発展するケースは少ない。前者の場合は、ザ・ワイドとジャストに見られ、後者の場合は、とくダネとスーパーモーニングにおいてみられる。

3-6 トークの進行パターン（進め方の特徴、発言形式と雰囲気）

ビデオ映像提示に続くレポーターなどによる解説後、スタジオにおけるトークの進行パターンは、トピック形式やテーマ提示形式、そして、ニュース形式というワイドショーの基本形式によって特徴が見られる。まず、トークの進行をパターン化すると、1) 司会者がコメンテーターに発言を求め、それを受けたコメンテーターが応答し司会者に戻すという完結形式、2) 司会者がコメンテーターに発言を求め、コメンテーターがそれに応答するものの、それを他のコメンテーターが受けて、疑問や同意表現を示し、さらに、3番目のコメンテ

ーターが2番目のコメンテーターの発言に対し推論を付加するなど、司会者を必ずしも經由することなく話が勝手に進展する発展形式がある。前者の完結形式はトピック形式に多用され、多くの場合、その繰り返しが基本パターンとなっている。後者の発展形式はテーマ提示形式に比較的多く見られる。トピック形式やテーマ提示形式とも、トークは、発言およびやりとりが複数回行われる複合的トークとなっている。それに加え、3) 司会者などが単発的に一言発言する簡略形式があり、これは、ニュース形式(トークあり)に多用されている。これらトークの進行パターンは、番組全体の雰囲気を特徴づけ規定する重要な主要素となっている¹³⁾。

たとえば、トピック形式が主体を占めているザ・ワイドでは、進行パターンは複合的な完結形式が多く用いられている。そのため、全体的な雰囲気は比較的硬くトークにおける発展性は少ない。また、テーマ提示形式が主であるジャストの進行パターンは、完結形式も見られるものの、複合的な発展形式が多用されるという特徴が見られる。雰囲気は全体的にソフトである。トピック形式とテーマ提示形式の両方を探っているとくダネとスーパーモーニングでは、それぞれの形式に応じて同様の傾向がみられ、雰囲気もトピック形式のときはハードでテーマ提示形式のときはソフトへと変化する

4 まとめと考察

まず、ワイドショーを構造上から分析するための基本形式をみると、「トピック形式」、「テーマ提示形式」および「ニュース形式」という3形式が挙げられる。「その他の形式」には、電話ショッピング、占いなどもある。

目的で述べたように、「トピック形式」とは、時事的要素を含んだ情報を多角的に取り上げ、そこで放映されるビデオ映像は、ストーリー性を持ち視聴者に対しある一定の方向性を示唆するものである。「テーマ提示形式」とは、特定のテーマを話題として取り上げ、その話題に関するさまざまな情報を付加しながら深く掘り下げ提示するもので、ビデオ映像にレポーターなどが主役として登場する場合も多い。いずれの形式も、その後のスタジオにおける説明や出演者によるスタジオでのトークが行われ、それらが一連となっているが、それぞれにおいて特徴がみられる。トーク場面でのトークの形態の特徴をみると、「トピック形式」や「テーマ提示形式」におけるスタジオトークでは、司会者

とコメンテーター間で、一つの話題に関する複合的なトークという形態をとる。しかし、両形式においてトークの進行パターンに違いがみられる。まず、「トピック形式」では、司会者を中心にトークが行われ、司会者とコメンテーター間の発話の往復からなる規則的で完結的なパターンが基本となる¹⁴⁾。この複合的だが規則的、完結的な発言形式により、全体的にフォーマルで硬い印象が形成される。一方、「テーマ提示形式」の場合は、このような規則的で完結的な発言形式もみられるが、多くの場合、コメンテーターから直接ほかのコメンテーターへと発言権が移動し不規則的に発展する発言形式が採られる。この発展的な発言形式は、スタジオの雰囲気盛り上げ、多くの場合、ソフトで自由かつ和気あいあいとした印象を形成する。

このような特徴をもつ「トピック形式」と「テーマ提示形式」だが、これらの2形式が各ワイドショーにどう取り込まれているかによって、各ワイドショーは、特徴づけ分類できる。つまり、「トピック形式」のみで構成されているのか、「テーマ提示形式」のみか、「トピック形式」と「テーマ提示形式」かの3パターンによって番組全体の印象が異なり、出演者によるスタジオトークのパターンも変化する。「トピック形式」のみで構成されている場合はフォーマル度が高く、「テーマ提示形式」のみの場合はフォーマル度が低い。両方の場合は、「トピック形式」と「テーマ提示形式」、それぞれのコーナーごとに雰囲気が変化したりする。もちろん、これらの雰囲気は、ビデオ映像などの情報提供、スタジオでの説明、その後のトークという一連の流れのなかで、それぞれの特徴があいまって形成されていくものだが、スタジオにおけるトーク場面でトークの形態の相違によるものが大きいと思われる。

一方、これらの2形式に加え、「ニュース形式」という要素が概念として見出される。これは、従来のニュース報道制作の手法を取り入れたニュースの提供だが、ビデオ映像に限らず、新聞をはじめとする他メディアを用いて紹介する場合もある。しかし、ニュース番組におけるニュース報道とは基本的に異なっており、ニュース紹介という域を出ることはない。さらに、そうしたニュース提供後、スタジオでのコメントを伴うものと、伴わないものに分けられる。前者の場合、つまり、「ニュース形式トークあり」においては、単発的で短い一言コメントが特徴として挙げられる。この規則的な簡略的発言方式は、ニュートラルで事務的な印象を与えることが多い¹⁵⁾。

以上3形式のうち、「トピック形式」と「テーマ提示形式」の2形式がどの番組においても4分の3以上を占め、ワイドショーを構成する上で主要素となっているといえよう。とりわけ、「トピック形式」は番組のトップで扱われるなど重要視されている。さらに、主として、これらの2形式の構成によって各番組の全体的な特徴が形成されているといえよう。

以上、本論文では、ワイドショーの構成を形式の上で概念化し、加えて、スタジオにおけるトークの形式や進行形態を明らかにし、それぞれの概念との関係性を検討した。最後に、スタジオにおけるトーク場面をあらためてみると、井戸端会議の予備機能、または、代用機能を果たしていると推測される。スタジオでは、出演者が、さまざまな立場から多様な意見や見解を示し論じ合うという仕組みにおいて、多様な論点が抽出される。視聴者は、コメンテーターを自分の代理に見立て、テレビの中に入り込み、隣人の解釈に感心したり、感情に同調したり反発したりしながら井戸端会議に参加する (Marshall, 1997)。そのように、出演者に自分を重ね合わせながら、自分の意見を決定する。いわば、トークの井戸端会議疑似体験 (バーチャル) を通じ、視聴者は主観的現実を構成し自己を確立していくと考えられる。このような視点に立ち、今後は、ワイドショーの機能や役割を探るために、トークのタイプやコメンテーターとトーク内容の関連性を詳細に検証する必要があるだろう。それにより、たとえば、各コメンテーターのデモグラフィック要因や経歴が持つ影響力を検出できるのではないだろうか。さらに、各局・各番組が求める「コメンテーター像」を分析し言語化することにより、ワイドショーの制作者の意図が鮮明になり、ワイドショーの影響をより明らかにできる可能性があると思われる。大江健三郎 (2004年3月6日朝日新聞) は、これまで漠然と言われてきた「テレビの会話性」に対し低い評価を与えているが、テレビにおける会話性の意義は大きいと思われる。是非、この点を今後の課題としたい。

注

- 1) 本研究の実施にあたっては、成城大学特別研究費ならびに日本学術振興会科学研究費の助成を受けた (基盤研究 (C) インターネット社会におけるスキャンダルーメディアと共鳴する対人コミュニケーション)。
- 2) TODAY では、視聴者対象は男性であったが、最新のニュースやスポーツの勝敗

結果、それに、レポーター取材によるいくつかの項目が盛り込まれていた。サテライトスタジオにて司会者のアットホームなムードが特徴的で、2時間というワイド番組だったという（浅田、1987）。

- 3) ワイドショーにおけるサッカー騒動の報道量は、事件勃発の3月31日から4月13日までの2週間をみても、14時間にも及んだという（萩原、2001）。サッカー報道とワイドショーの関連については川上善郎（2004）に詳しい。
- 4) 田中（2002）によれば、近年書かれた報告書や論文の中では「情報番組」という言葉が使われ始めているという。
- 5) 放送時間についても、ワイドショーの拡散期に入り多様化しているが、その多くは2時間を基本としている。
- 6) ニュース制作においても視聴率の問題は絡むものの、ニュースの制作者らは、ニュースバリューとして「重要性」という職業的価値観を重視しつつ、さらに、「興味」という市場原理に基づく価値観とのバランスをとる時には「インパクト」という価値観を用いて表現するという（Werth-Pallmeyer, 1997）。
- 7) このような生中継の使用は、日本では増加し、臨場感を視聴者に与えるため視聴率につながっているという（碓井、2003）。
- 8) ジャストを除いた3番組で、この問題を取り上げている。
- 9) 「1.4 ワイドショーを構成する基本形式」で述べた基準に従って分析した。また、トピック形式とテーマ提示形式はクロスオーバーする部分が多い時もある。記事の内容が明らかに同様のもので、両者を区切りにくい場合、内容を重視し番組の構成を検討し、無理に区切らず1つのまとまりとしてトピック形式と捉えた。たとえば、スーパーモーニングにおいて、「イラク派遣閣議決定」はトピック形式だが、それに続く「イラク派遣と日本の国益」に関しては、両者の内容の連結性を重視し、1つのまとまりとしてトピック形式とした。
- 10) 構成表から各番組共通の2テーマである「向井亜紀に双子誕生」と「電気コードで乳児感電」という項目を取り上げた。ただし、TBSのジャストでは「電気コードで乳児感電」に関する放送はなかった。1つ目のテーマである「向井亜紀に双子誕生」は、子宮がんで子どもを生むことができなくなった向井亜紀が、アメリカで代理出産に挑み今回双子を授かったというニュースである。また、2つ目のテーマの「電気コードで乳児感電」は、電気関係の職についている父親が4ヶ月の我が子を蘇生させようと電気ショックを与えた事件に対し虐待疑惑がもたれているというニュースである。
- 11) 活字メディアとしては、一般紙、スポーツ紙の記事を読み上げる場合が多い。時には週刊誌の記事を引用することもある。

- 12) 「ニュース形式2)」として前述。活字メディア（一般紙、スポーツ紙の記事）をそのままスタジオ内で提示し、スタジオのアナウンサーが記事を読み上げニュースを報道するパターンのこと。
- 13) 進行パターンは、構成要素との関連が深いのが、その他には、取り上げた主題分野（政治なのか芸能なのか）や出演者（司会者コメンテーター）のキャラクターにも多少の影響を受ける。
- 14) 三宅（2004）によれば、スポーツ放送では、アナウンサーと解説者間に、つまり、質問、応答、質問者の確認（Initiation, Response, Follow-up）という一連のIRF構造が見られるとしている。たとえば、「アナウンサーは専門家としての解説者のコメントを引き出すため（実際に知っていることも含めて）質問を行い、解説者の応答を得てそれに対して納得や驚きなどの表現で確認する」というパターンである。このIRF構造がワイドショーのスタジオトークの中でも使用されている。
- 15) この簡略的発言方式とは、Herritage & Greatbatck（1991）による「ニュースインタビュー形式」と同義である。

文 献

- 浅田孝彦（1987）『ワイドショーの原点』新泉社
- Dwight De Werth-Pallmeyer（1997）*The Audience in the News*, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, Mahwah, New Jersey.
- 江森陽弘（1999）『「視聴率がすべて」でテレビはいいのですか』『放送レポート』110号
- 藤竹暁（2002）『ワイドショー政治は日本を救えるか』ベスト新書
- 萩原滋（2001）「ニュース番組の内容と形式」萩原滋編著『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社
- 萩原滋・福田充（2001）「テレビにおける選挙報道」萩原滋編著『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社
- Herritage, John, & David Greatbatck（1991）On the institutional character of institutional talk; The case of news interviews. In Deirdre Borden & Don H. Zimmerman, (Eds.), *Talk and Social Structure*. Cambridge: Polity Press.
- 石田佐恵子（1998）『有名性という文化装置』勁草書房
- 笠谷寿弘（2000）「3極化の時代、朝のワイド番組」『放送文化』6月号、NHK出版
- 川上善郎編（2001）『情報行動の社会心理学—送受する人間のこころと行動—』北大路書房
- 川上善郎、日吉昭彦、石山玲子、松田光恵、鈴木靖子（2002）『ニュースを語る—社

- 会的現実を作るメディアトーカー』日本社会心理学会第43回大会発表
- 川上善郎 (2002) 「メディアが作ったサッチー騒動—作られる世相—」『日本語学』明治書院 vol. 21, pp. 56-64
- 川上善郎・川浦康至・古川良治・片山美由紀 (2002) 『社会的現実形成にかかわるニュースメディアの可能性と限界』文部科学省科学研究費基盤研究 (B 2) 課題番号 12410040 研究成果報告書
- 川上善郎・日吉昭彦・石山玲子・松田光恵・鈴木靖子 (2003) 「社会的現実を作るメディアトーカー—ニュース報道の共鳴化—」『コミュニケーション紀要』成城大学大学院、第16輯、pp. 29-129
- 川上善郎 (2004) 『おしゃべりで世界が変わる』北大路書房
- 小池振一郎 (2001) 『ワイドショーに弁護士が出演する理由』平凡社
- 三宅和子 (2004) 「スポーツ実況放送のフレーム」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編『メディアとことば (1) —マスメディアのディスコース』ひつじ書房
- 朝日新聞 (2004) 「大江健三郎氏、首相、薄笑い答弁」朝日新聞3月6日朝刊
- 鈴木みどり (1992) 『テレビ・誰のためのメディアか』学芸書林
- 読売新聞 (2004) 「生活感を大切に 祝2000回—はなまるマーケット2000回」読売新聞7月30日夕刊
- 田中東子 (2002) 「主婦向け情報番組のわな—沈黙は饒舌に包囲される」伊藤守編『メディア文化の権力作用』せりか書房
- 碓井広義 (2003) 『テレビの教科書—ビジネス構造から制作現場まで』PHP研究所